

オペラ

世界初演

歌麿の恋

栃木市民オペラ

市民合唱と

プロの音楽家が

一体となって贈る 栃木市初の

オリジナル市民オペラ

恋をするように

美人画に向き合う歌麿の姿が

音楽の力で

鮮やかに表現される

囁く見よ何れ
あはれ花

UTAMARO

no Koi

演出 田野邦彦
指揮 大浦智弘

脚本 メンサー華子
作曲 鳥羽山沙紀

喜多川歌麿 大澤一彰

こま メンサー華子

善野喜兵衛 大井哲也

萬屋重三郎 栗原剛

ツル 早川愛

合唱 とちぎ歌麿市民合唱団

演奏 アンサンブル歌麿

Pf. 内門卓也

Vn. 去川聖奈

Pc. 為国健太

三味線 守啓伊子

Perc. 亀井博子

2024年 12月1日 日曜日

全席自由

前売り 3000円 当日 3500円 小中高生 1500円 (税込)

チケット販売
とちぎ岩下の新生姜ホール (栃木文化会館) 0282-23-5678
じょりんぼ 0282-22-1093 ※未就学児のご入場はご遠慮ください

14時〔開演〕 13時半〔開場〕 とちぎ岩下の新生姜ホール 大ホール
〔栃木文化会館〕

◎主催 とちぎ歌麿シアタープロジェクト ◎制作 はなさきオペラ工房

◎後援 歌麿を活かしたまちづくり協議会 / 読売新聞宇都宮支局 /
(株)下野新聞社 / 栃木ケーブルテレビ / FMくらら 857 / 公益財団法人東京二期会

◎問合せ先 歌麿を活かしたまちづくり協議会 <https://tochigi-utamaro.com>
とちぎ歌麿シアタープロジェクト starf0702@yahoo.co.jp 080-3018-3648

UTAMARO

no Koi

歌麿の恋

世界初演 オペラ

栃木市民オペラ

うたまるのこい

江戸寛政年間(1789-1801年)、老中・松平定信による改革のもと、自身が描く絵に次々と制約を科せられた浮世絵師・喜多川歌麿は、江戸を離れて、狂歌を通じ知己を得た豪商・四代目善野喜兵衛の住む栃木を訪ねては絵筆を動かしていた。

本作は、栃木滞在時に描いた肉筆画の一作「女達磨図」をモチーフに、スランプに陥った歌麿が、栃木で出会った女性・こまとの交流を通して新たな画風「美人大首絵」を手に入れるまでを描く。

当時、歌麿を美人画浮世絵師の頂点に導いた版元・蔦屋重三郎(通称・蔦重 2025年NHK大河ドラマに決定)もストーリーに絡む。



大浦智弘
Tomohiro Oura
指揮



田野邦彦
Kazuhiko Tano
演出



鳥羽山沙紀
Saki Tobayama
作曲



ツル
早川 愛
Ai Kayakawa
ソプラノ



蔦屋重三郎
栗原 剛
Tsuyoshi Kurihara
バリトン



善野喜兵衛
大井 哲也
Tetsuya Oi
バリトン



こま
メンサー 華子
Kanako Mensah
ソプラノ・脚本



喜多川歌麿
大澤 一彰
Kazuaki Osawa
テノール



亀井博子
Hiroko Kamei
マリンバ・打楽器



守啓伊子
Reiko Mori
三味線



為国健太
Renta Tamchuni
チェロ



去川聖奈
Seina Sarukawa
ヴァイオリン



内門卓也
Takuya Uchikado
ピアノ

合唱
とちぎ歌麿市民合唱団
演奏
アンサンブル歌麿

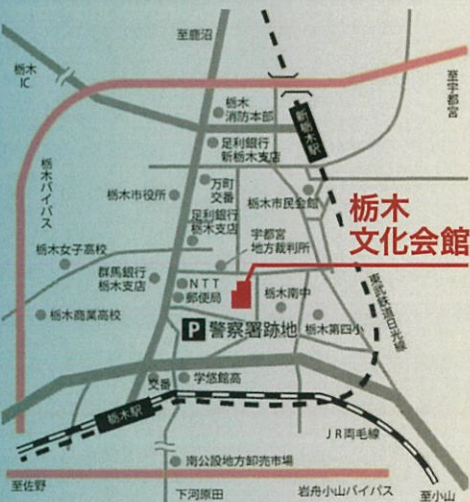
スタッフ
舞台監督 片岡友美子
舞台美術 鈴木健介・谷佳那香
照明 中根和志(東日本舞台)
衣裳協力 八重桜の会
ヘアメイク 北山なつき

喜多川歌麿
「名取酒六家選 兵庫屋華妻 坂上の剣菱 部分」
(The Metropolitan Museum of Art)
「百千鳥狂歌合 部分(千葉市美術館蔵)」

公演監督 大木 洋

合唱指導 メンサー 華子・荒井庸子
事務局長 本橋芳男・星野進
実行委員 下枝順子・宇賀神文香
神永晴美・松本律子・山本幸子

交通案内
「電車」 東武日光線、JR 両毛線、
栃木駅北口より徒歩15分
「バス」 栃木駅より市街地北部循環線(東回り)等
文化会館前下車
「クルマ」 東北自動車道、栃木ICより車約15分
ホールの駐車台数には限りがあります
警察署跡地への駐車にご協力ください



歌麿の恋